ISSN 0288-1721

日本文學論究

令和四年三月二十日　発行

第十八冊

目次

【シンポジウム】
機能としての物語
シンポジウム成立までの経緯と主旨文・國學院大學國文學會事務局（3）
物語が生まれる場、死ぬ場
―「迷ハシ神型」妖狐譚を例として―……伊藤　龍平（5）
夕顔物語と「昔物語」……竹内　正彦（15）
黄表紙の「世界」と「趣向」から
―前提としての物語―……中村　正明（27）
物語の逸脱性……（ディスカサント）野中　哲照（39）
動態としての物語と読者の遠近……（司会）石川　則夫（45）
――――――――――――
「ほのぼのと明く」の再検討
―『伊勢物語』第四段を起点にして―……吉海　直人（49）
『源氏物語』藤壺中宮と財物（たからもの）
―「薄雲」巻を始発として―……太田　敦子（61）
心と水
―西行詠「心のそこ」の表現形成について―……荒木　優也（75）
――――――――――――
【座談会】
新時代に対応する古典文化研究をどう切り開いてゆくのか
―「古典」と「生活の古典」を結ぶもの―……大石　泰夫（89）
（司会）上野　誠　土佐　秀里
國文學會通信……（124）
彙報・令和三年度事業報告……（131）
編集後記……（135）

國學院大學國文學會